

Collaboration2

KOREA
JAPAN
DJHS

未来の授業に国境はない

年齢も立場も専門分野の垣根もこえて、
アイデアや学びをシェアする授業がやってきた
アジアものづくりプロジェクトはいよいよ第二ステージへ



風力発電の要 ブレードをデザインし学びをシェアする授業

信州大の村松氏、韓国の高 校生が同志社中学で授業

最近、韓国は創造教育／発明教育の方面にも力を入れていて、来校したミレ産業科学技術高校はその特別教育で有名な学校です。

高校生が企業に提案し、商品化されていくそうです。

そして信州大学の村松浩幸先生は教育学のみならず知財／特許でも実績のある有名な方。7月15日に同志社中学校でブレードデザインの授業が行われました。韓国の高校生と日本の中学生がペアになって、村松先生から出されるミッションを乗り越えて行く。英

語、韓国語、日本語、気がつけば言葉の壁を乗り越えているワークショップ。

紙を使って発電機のブレードをデザインし、扇風機からの風をいかにうまくとらえて発電させることができるか、その発電量を測定し、競い合うコンテストは大盛り上がりを見せました。



program

- 1 発電のしくみと電気の基本
- 2 世界最小クリップモーター
- 3 ブレードデザイン製作
- 4 コンテストと表彰

アジアものづくりプロジェクト



since2013

これまでの枠組みに風穴を通し、国境をこえた学びのシェアを体験するプロジェクト。韓国の教師が本校で授業を行った2013年1月、クリップグライダーのワークショップからスタートした。立場、国境、言葉の壁を乗り越えて、グローバルなものづくり授業を展開しようとしている同志社中学校技術科のプロジェクト。

